

私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「糖尿病・内分泌代謝内科」

信州大学医学部内科学第四教室

浅野有紀

そもそも医療に興味がなかった私が医師となり、糖尿病・内分泌代謝を専攻しようと決めた大きな理由は自身の実体験にあります。10代半ばまで当たり前のよう健康を享受し、陸上競技で全国入賞するようになってからは、疑うことなくスポーツの世界で活躍する選手という将来像を描いていました。その後、原因不明の低血圧や食欲低下に悩まされるようになり、日常生活も困難になりました。「当たり前」が自分から無くなっていく恐怖によって子供ながらどんどん憔悴していったことを覚えています。成長期という心身共に不安定な時期に、過度な練習を積んだことが原因か、はたまた精神的重圧に体が耐えられなくなったのかどうかは今となっては見当がつきません。幸いなことにその経験の中で人体の奥深さや興味深さを感じ、人体

私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「呼吸器・感染症・アレルギー内科」

信州大学医学部内科学第一教室

和田洋典

私は1982年5月15日の生まれですが、私が生まれた日、当時信州大学医学部内科学第一教室に勤務していた私の父は、藤本圭作先生のおそらく初めての発表を見守りに、学会に行った帰りでした。その偶然が、私の入局を既に決めていたのかもしれませんが。私の先祖は四賀村の奥（したこ）に居住、江戸時代に現在の安曇野市堀金（旧堀金村）に移住したそうです。代々農家でしたが、祖父が大変賢く、京都大学を卒業して医師となり、結核を研究していたそうです。祖父は留学の希望があり旅行鞆まで準備しておりましたが、第二次大戦となり中止、長崎県川棚にて軍医になりました。終戦後、留学したい希望がやはり強かったようですが、地元の堀金に戻り開業しました。開業しても、当時の信州大学薬理学教室にお邪魔して、研究させて

が正常に機能する仕組みと、そのバランスが崩れる背景を知りたいと思うようになりました。この経験を体系的に生かせる職業として医師を選びました。また予防医学的な側面から人の健康に携わることができる糖尿病・内分泌代謝内科を専攻することに決めました。

専門科として以前に、一般的な内科の知識や経験が浅いため当然かもしれませんが、日々の診療を通して、病態が把握できるものもある一方、検査結果だけでは病態が理解できない奥深さがあると感じています。高齢者が多い糖尿病患者を診療する中で、生活環境やADLを考慮して柔軟な治療選択をすべき場面に出会うことが多く、うまく調整ができたときは患者さんに喜ばれることでやりがいを感じます。「疾患だけでなく人を診る」ということはどんなことなのか、日々考えさせられます。

今後は糖尿病・内分泌学の専門として経験を積んでいくことはもちろんですが、将来的には自分の選手時代の経験や医師としての知識や経験を生かして、何らかの形でスポーツ領域に貢献できるよう考えていきたいと思っています。（富山大平29年卒）

いただいたようです。祖父の姿を見てか、父は信州大学医学部内科学第一教室に入局して内科医となり、父の弟さんは信州大学整形外科に入局して、整形外科医になりました。

中学生の頃気胸となり、当時の豊科赤十字病院に赴任されていた平山二郎先生に診察してもらいました。凹んだ自分の肺をX線みてポカンとしていると、平山先生が紙カルテに、とてもきれいなレントゲン写真の模式図を描いてご説明くださったのが印象的で、以降肺に自発的な興味を持つようになりました。深志高校に入学した1年目に心外膜心筋炎になり、内科学第一教室に入院した時期もあり、当時教授であられた関口守衛先生の総回診を、正座して待っていたことを覚えています。心肺ともに内科学第一教室にお世話になったため、将来は入局して働き、恩義を返すのが筋じゃ！と決意し、ちょうど肺と心臓の真ん中にある肺動脈に生じる肺高血圧症をテーマに頂き、研究に目下勤しんでおります。最後に、私と、私の父のことをいつも気にかけてくださる望月一郎先生に感謝申し上げます。（福島県立医大平20年卒）